

# 森林を基盤に、支え合いを理念に事業展開 持続可能な森林のまちづくりに尽力

◇ 森林が人々を癒す「森のツーリズム」

林業のまち下川町を歩くと、木の香りと視界いっぱい広がる緑が心地よい。その森で間伐体験をし、モミの枝葉からエッセンシャルオイルをつくる体験ができる。伐る木を決めたらチェーンソーではなく手鋸を使う。騒音も排気ガスもなく、時間をかけて木を伐る作業に夢中になる人が多く、森林療法の中でも作業療法としての効果がある。そして、枝葉を集め、工場で蒸留する。蒸したての

文・加藤知美

葉で足浴を楽しんだり、町内の畑の中のレストラ  
ンでスローフードのランチをいただき、最後にエッ  
センシャルオイルを小瓶に詰めて持ち帰る。都会  
でアロマテラピーショップを開いている女性など  
が参加し、森で枝葉を集めるところからの丸一日  
はとても貴重な体験となっている。この体験プロ  
グラムを実施しているのは、「NPO法人森の生  
活」だ。他にも蜜ろうを使ったキャンドルづくり  
や森林をゆっくり歩く森林セルフケアなどのプロ  
グラムがあり、遠方からの団体客や地元住民に  
「森のツーリズム」を提供している。森の癒し効  
果は、自律神経活性化度を測定する装置で数値化す  
ることもできる。

下川町は、人口約三七〇〇人の林業のまち。か  
つては鉱山もありピーク時に一万五〇〇〇人を超  
えていた人口も減り続けている。そうしたなか、  
森林資源を大事にし五〇年以上かけて植林と伐採  
を繰り返すことで循環型林業経営を軌道に乗せ、  
「環境モデル都市」にも指定されているまちづく  
りは全国的にも注目を集めている。

◇ NPO設立の経緯と理念、現況

NPO法人森の生活の代表をつとめる奈須憲一  
郎さんは、環境問題に興味をもって進学した大学

で内発的發展  
論を研究し、  
事例として選  
んだのが下川  
町だった。大  
学院卒業後の  
一九九九年か  
ら下川町役場  
に勤務し、企  
画振興の仕事  
につくかたわ  
ら、下川町へ  
のU・Iター  
ン者が結成し

た森林ボランティア「さーくる森人類」に参加し、  
週末になると、五味温泉周辺の町有林で森づくり  
や林業体験の活動をした。しかし、メンバーは本  
業との両立に苦勞し、ボランティア活動としての  
スタイルは限界だった。その一方で、下川産業ク  
ラスター研究会のがけた森林療法が事業として  
の可能性を持ち始め、先に民宿経営を目指して独  
立していたメンバーとともに、二〇〇五年、役場  
を退職した奈須さんが健康と癒しの事業によって  
健康で持続可能なライフスタイルの創造と提案を  
おこなうNPOを設立することとなった。

森の生活は、当初より、山村を基盤とした経済  
活動によって持続可能な地域をつくる志をもち、  
設立趣旨書によれば、「お金に動機づけられるの  
ではなく、支え合いに動機づけられて経済活動を行  
う」ということは、この活動の参加者一人一人が  
他者の統制に従う働き方ではなく、内発的な動機



スキー場ロッジの2階に事務所を構える。  
右端が奈須憲一郎代表

## 北海道の元気! NPO訪問

15 NPO法人 森の生活

づけに基づく働き方を確立することに他なりません」と、地域で誇りをもって働き続けることができる場となることを願った。

設立六年目の現在、二〇代から六〇代の移住者など四名の有給常勤スタッフと四名のパートタイマーが働き、体験プログラムや精油の製造販売、宿泊事業をおこなうほか、受託事業などを含め、事業規模は約三五〇〇万円に達する。スタッフは必要に応じて自主的にうちあわせをすすめ、各担当の相互連携を密にしている。

### ◇ 中心的な三事業、相乗効果のアップが課題

森の生活は、森林ボランティアでの活動を母体に発足したため、林業体験や森林療法のプログラムが事業の最初の柱となった。

その後、下川町森林組合が取り組んでいた、間伐の際の林地残材を活用したトドマツの枝葉からエッセンシャルオイル(精油)や化粧水を製造する事業を、二〇〇八年に継承した。手作業の多い地道な作業で原料の供給も不定期なため苦労は多



森の中で木を伐るところから精油づくりを体験  
(写真提供：NPO法人森の生活)

いが、デザインを一新し価格改定をするなどの工夫で利益を確保している。販路としては、首都圏の生活クラブ生協系のカタログ販売の比重が高いが、アロマショップや環境雑貨を扱う専門店への卸売や、WEBサイトでのオンラインショップの運営もおこなっている。

製造にあたっての機械類は既存のものを賃借しているため初期投資は少なくて済んだ。とはいえ、瓶詰めや発送のコスト、スタッフの人件費など運転資金の調達には悩みが多い。そこで、疑似私募債によつて各地の支援者から一〇一〇万円で二〇〇万円を超える資金を得たり、北海道NPOバンクの融資をうけて事業をまわしている。

もうひとつの事業の柱は、下川町が建てた地域間交流施設「森のなか ヨックル」を指定管理者として運営する宿泊事業だ。ただし、委託料はなく利用料収入から利益を町と折半することで運営している。生活に必要な家電やインターネットなどの設備が整った一戸建てが一〇棟あり、田舎のちよつと暮らしに向いている。さらに交流棟には大きな調理室があり、地元食材を利用した料理講習会などにも活用できる。ヨックルの敷地には、「食べられる庭」と名付けた菜園もある。その収穫をシェフが料理し、町外からの宿泊者と地域の人と交流できる食事会を開催し、ワールド・カフェというオープンな会議手法を用いてまちづくりなどをテーマにした話し合いが近く予定されている。現在の三つの事業の柱の相乗効果を高めていくことが、森の生活の今後の課題だという。滞在と森林体験、宿泊のアメニティとしてのエッセンシャルオイルの活用などを通じて、人間も地球も持続

可能なライフスタイルへと向かうお手伝いをしたいと考えている。

社会的企業が注目される昨今だが、下川町のような山村の小さなビジネスは簡単ではない。

既存の事業を引き継ぎリニューアルして展開するなどの工夫で着実な事業展開をしている。NPO法人設立から五年あまりしか経っていないが、奈須さんは、役場勤務や森林ボランティア活動を含め、一〇年以上布石を打ってきた結果だという。「森を育てるようにじっくりと事業を育てたいんです」という言葉どおり、奈須さんは、持続可能な地域づくりを静かに思索している。



長期滞在も可能な宿泊施設  
「森のなか ヨックル」

### ◆ NPO法人森の生活

所在地 上川郡下川町南町444-2  
TEL 016551412606  
WEB <http://www.forest-life.org/>